第６号
平成６年(1994年)４月
～横田先生追悼号～

ア イ キ
— △ ○ □ —
精武館通信

〒652神戸市兵庫区石井町8-2-12
(078)521-3343 道場長/濱崎正司
(財)合気会神戸支部・精武館

□特別寄稿□ 横田金典さんの思い出

七段昇段祝賀会(平成元年)での横田先生

植芝吉祥丸
合気道道主

昨年１２月、横田さんが亡くなられた。訃報に接した私は、一刻耐えしれぬ淋しさで、全身から力の抜けて行く思いであった。

横田さんとは、昭和３０年頃、横田さんが東大に在学しながら合気道を修業しておられた当時からのつながりである。その後、大学を卒業されて三菱重工業(株)に入社され、任地の関係から神戸合気会のお世話をお願いして以来、実に長期に亘っている。

特にその期間は、神戸支部道場創設の恩人、今は亡き山端一夫氏と横田金典氏、さらに現合気会理事の米持英夫氏の三本柱を中心として、道場の基礎が築かれ確立されていった。現在、春風駘蕩とした穏やかさの中にも稟としたきびしさを湛えているこの道場の雰囲気は、謙虚な中に合気道そのものの奥ゆかしさを感じせしめる迄になっている。この雰囲気は、横田さんが多年に亘り、無心で修業され積み重ねてこられたあり様そのままであり、私の胸中に去来してやまない横田さんの面影とも言える。

昭和４０年頃、幾度か神戸を訪問した私に対しその都度横田さんは、山端さんとともに道の話題を中心とした心のこもった歓待に終始された事を思い出す。時には米持さんを交えて支部発足以来積み上げられてきた話題に夜の更ける事も忘れるほどであった。

最初、米持さんの人柄に惚れて合気道の修業道場を創建された山端さんは、その後横田さんを識るに及び、横田さんに対する信頼から道場に精神的逞しさが加わり、非常な重厚さを増すに至った事は、初めて道場を訪れる人々が異口同音、口にする処であったと聞いている。

山端一夫さんが亡くなられた葬儀の日、横田さんとともに参列させて頂いた私は、薄ら寒い外気を受け乍ら二人で語り合った当日の事が今となっては、何か忘れ得ぬ思い出として胸中深く焼きついている感じである。

それ以来、横田さんには種々細かい事まで非常にお世話になった。特に山端さんのご令室様始め、ご令息一誠さんへのご連絡など、横田さんではならではのご配慮に対し感謝の気持ちで一杯である。

この度、横田さんを偲ぶ号として道場の記念誌を出されると聞き、尽きせぬ思い出を胸にたたえつつ、祈りをこめて一文を書かせて頂いた。

心から横田金典さんのご冥福をお祈り申し上げる次第である。

最後に、横田さんとともに合気道の修業をされた神戸精武館道場の方々は、横田さんの心を帯し、益々道のご精進に努められます様お願い致します。

横田金典師範の死を悼む

濱崎正司/精武館道場長

我が神戸支部の育ての親、横田師範の突然の御逝去に際し、会員の皆様と共に深く哀悼の意をささげます。

横田師範の逝去と共に思いだされるのは、故山端支部長のことです。その絶大な信頼の中で大きく育ってきた神戸支部も、３年前にその産みの親に逝かれ、そして今また大切な柱を失ってしまったことは痛恨の極みです。

私と横田師範との出会いは３６年前、師範が神戸道場の指導にあたられていた昭和３３年１１月に遡ります。不祥の弟子でありましたが、青春時代とその後を共に過ごしてきたものとして、師範の人柄を紹介し追悼の言葉とします。

小生が合気道の門を叩いた頃は、週２回は生田警察署の道場、１回は日曜日に精武館で稽古をしていました。

当時は現道主をはじめ、多くの先生の御指導を得る機会がありました。それは故山端先生及び横田先生の人徳によるものと思っています。

先生と私は同年代で、道場の生田署が三ノ宮にあるということもあって、稽古が終わると、どちらともなく暖簾をくぐって、仕事に対する見方やポイントのつかみ方、合気道の話などをよくしたものです。

先生にはユニークな物の考え方があり、その感覚が合気道の技にもあるようでした。また、先生が本部道場から帰ると、新しい技の練習が始まり、その受けをとるのが小生でした。

もう一つ、技のセンスが抜群で神戸支部名物ともいわれていた猪谷さんは、若き日の先生が情熱をかたむけ指導された作品ではないかと思っています。

その他にもいろいろなことがありましたが、特に思い出すのは、昭和４８年８月に神戸支部より２人で、多田師範の指導されていたイタリア合気会の講習会に参加したことです。講習以外の日は北欧を含めた７ヵ国あまりの観光もしました。その間先生と寝食を共にし、人として得るところが多くありました。スイスで２人が団体を離れ、山登りをして集合時間に遅れ、次の場所にタクシーで追いかけたこと、ミラノに川向君を訪ねる汽車で英語が通じず苦労したことなど、師と楽しく過ごしたことがまるで走馬灯のように思い出されます。

先生は「死について」何年か前に、人に迷惑をかけずに静かに逝きたいと言われたことがありました。そのことを思い出すと、昨年１０月頃に、最後に道場に来られたのは、自分の体調をよく知っておられ、最後の挨拶をしに来られたのではないでしょうか。小生はそれまで死について考えたこともなかったので、先生の苦しみも解らず、その時顔色が悪い先生に「お気を付けて下さい」のみしか申し上げずに別れたことが悔やまれます。まだ合気道のこと、人生のことを教え頂く間もなく天に召されてしまいました・・・。

しかしこの時にあたって、師範の御霊を安んじるただ一つの道は、会員の皆様と力を合わせ、当支部を守り、盛り立てていくことであると考えます。御指導賜った技を継承、発展させるよう努めると共にその心を引き継ぐことが、合気道を愛した我が師へのせめてもの安らぎになることと思います。横田師範の意思を継ぎ、皆様と協力してまいりますので、どうぞ神戸支部を見守っていて下さい。御霊の安らかなるを祈りつつ・・・。合掌。

追悼・二人の先達

― 神戸支部の揺籃期

米持英夫/財団法人合気会理事・八段

昭和３３年春、ある日突然「三菱重工の横田と申しますが、ぜひお会いしてご相談したいことがございます」との電話を受け、翌日が横田さんとの初めての出会いでした。

横田さんは「私は東大合気道部の出身で今度三菱重工神戸に入社致しましたが、折角始めた合気道をぜひ続けたいので道場長（当時）植芝吉祥丸先生（現道主）にご相談申し上げたところ、残念ながら現在神戸には支部はないが、本部で稽古をしていた米持君が居るから相談してみてはどうか、とのことでお伺いしました」とのことでした。

一方私も前年秋、東京から現新日本証券神戸支店に転勤して間もない頃でしたし、出来れば合気道を続けたいと横田さん同様

の思いを抱いておりましたので、即座に「やりましょう」と意気投合いたしました。

さて、では道場をどうしようかということで道場探しを始めましたが、神戸に来て間もない２人、友人知人も無く、まして駆け出しのサラリーマン、まとまった費用も出せる給料などありません。毎日虚しい道場探しが続きましたが、ある日私の会社が入居いたしておりました旧朝日ビルの管理人から「近所のビルの屋根裏の物置が空いている」との情報を得、「暫くの間」という事を条件に無償で借り受けました。広さは１０畳余りの薄暗い倉庫に、動くと足の指先が突っ込むようなボロ畳を敷いてたった２人で稽古を始めました。

それでも毎日会社終了後急いで集まり、２人で稽古を始めましたが、いつまでもこんな状態で続く訳は無いし、仲間もなかなか集まりません。なんとか本格的な道場が欲しいし仲間も増やしたいと、日頃から考えておりました生田警察署に思い切って飛び込みでお願いに参りましたが、前例が無いと道場の責任者の方にあっさり断られました。

それでもいろいろ伝手を頼って探しておりましたら、私の大学の同窓会名簿に兵庫県警本部に同級生が外事課長として勤務しておりましたので、すぐお願いに行きましたところ、親切にも私の目の前で生田警察署の幹部の方に電話で交渉をして頂き、特例ではあるが週２回、地下の柔道場を貸して頂けることになりました。当然のことながら時間厳守、掃除、後始末等いろいろ厳しい条件を付けられましたが、何とか本格的に稽古が出来る道場をお借りすることが出来ました。その日は横田さんと２人、夜遅く迄酒を飲んで喜び合ったことを記憶致しております。

ようやく道場の確保は出来ましたが、まだ稽古仲間がおりません。これでは折角の警察署のご好意に反し、いつまた閉鎖に追い込まれるかもしれません。早く何とか会員を増やしたいと必死に会員募集を致しましたが、当時神戸での合気道の知名度は極めて低く、募集は困難を極めました。横田さんと２人、それぞれの職場から始めようと会社の同僚の説得勧誘を始め、とにかく道場に来て見学をしてもらうことから始めました。そして１人、２人と稽古を始めてもらえるようになりました。

当時私は新日本証券で営業を致しておりました関係で方々の会社に出入りし、いろいろな方々にお目にかかる機会がありましたので、商売もそこそこに合気道の素晴らしさを説明し、１人でも見学者を増やすよう懸命の努力を致しました。暫くして２人の努力の甲斐もあって見学者も集まり、その中から入会される方も増えてきました。

古い会員の方々はご存知かと思いますが、神戸製鋼の課長だった金川さん、当時既に５０才に手の届く年齢だった兵庫建設重役の庄司さん、川崎航空機の株式課長だった猪谷さん。猪谷さん御自身は戦争で負傷しておられましたが、特に合気道の精神に感銘され「私自身は出来ないがぜひ娘にやらせたい」とお嬢さん、それに部下だった深見さん等を伴い、毎回最後の掃除が終わるまで熱心に見学をされておられたのが印象的でした。私の会社でも後々まで熱心な会員だった井上さん、加藤さん等も入会されました。横田さんも会社の同僚や関係会社の方々に懸明に説得、勧誘をされておりました。やがて会員からの紹介や口コミ等で毎回１０人、１５人の仲間が集まり、かなりまとまった稽古が出来る体制になりました。

そんなある日先輩の紹介で、当時富士化学の会長だった山端一夫さんにお目にかかる機会を得、以来生涯の御付き合いをさせて頂くようになりました。山端さんとの話の中で「うちにもいろいろな会社の人が大勢出入りしているが、君が一番礼儀正しい。何か武道でもやっていたのか」と尋ねられ、合気道をやっておりますのでぜひ見て下さい、と御願い致しますと「よしわかった」と快諾され、数日後関係会社の社員多数を連れて見学にいらっしゃいました。

当時は私も横田さんもいささか緊張気味でしたが、なんとか期待に添える演武をしたいと一生懸命でした。演武終了後、特に合気道の精神面についていろいろ説明を求められました。もとより駆け出しの２人では十分な説明は出来なかったと思いますが、熱心に聞いて下さいました。当時山端さんには、最も尊敬し熱心な会員だった天風会の中村天風先生の教え等について夜遅くまで熱心にお話しして頂きました。そして多数の社員の方々と共に、既に４０も半ばを過ぎた年齢で率先入会をされ、爾来毎回初歩の受身から熱心に稽古を続けられました。

こうしてようやく道場も確保出来、会員も徐々に増加し、組織だった楽しい稽古が出来るようになり、未熟な私共もそれなりに一生懸命に指導を続けました。特に横田さんは皆さん御承知の通り大変真面目で熱心な指導者、技も性格そのもの教科書のような指導をされ、稽古終了後の掃除も率先垂範され会員の皆さんから絶大な信頼を得ておりました。また時々、稽古が終わると山端さんが全員を食事会に招待してくれ、皆で楽しい一時を過ごさせて頂きましたのも思い出です。

こうして２人で始めた神戸の合気道もようやく体制が整いましたのを期に、本部道場長の植芝吉祥丸先生（現道主）の御来港を賜ることになりました。道主と山端さんとの関係は俗にいう気が合うというのか、すぐに肝胆合照らす間柄となり生涯尊敬し合い、山端さんもますます熱心な合気道の支持者となられました。その後再三植芝先生の御来港を頂き、昭和３４年夏には地元生田区の小学校を借り、神戸で始めての合気道演武会を開催させて頂くまでになりました。

こうして正式に合気会神戸支部として発足し、山端さんを支部長に、私が道場長、横田さんが道場長代理として正式に認知された故です。この頃から植芝先生御来港の折、時々山端さんと、神戸で合気道を発展させる為にはどうしても自前の道場を持たなければならない、というような話し合いが持たれておりました。山端さんは、自宅の庭に空地があるので道場を建てよう、何時でも仲間が集まって気兼ね無く稽古が出来る場所を作ろうと決意され、莫大な私財を投入され建てられたのが後の精武館道場です。

以後は皆さん御承知の通り、精武館道場を中心に多くの仲間が集まり、今日の神戸支部の発展につながって参りました。

私は昭和３０年代半ばに札幌へ転勤することになり、後事を最も尊敬する山端さん、最も信頼する横田さんに託し、思い出深い神戸を後に致しましたが、その後山端さんん、横田さんを中心に、皆さんの努力で今日の発展を見ることが出来ましたことに心から感謝を申し上げる次第です。

昭和３３年春、縁あって横田さんと一緒に蒔いた一粒の種が、山端さんという大きな太陽のお陰で現在の発展につながったものと思います。

山端先生、横田先生有難うございました。心から御冥福をお祈り致します。

最後に遠く東京より皆様のご健勝をお祈りして筆を置きます。

神戸支部と横田さんと

遠藤征四郎/合気会本部師範

合気道を始めてから１０年、私の合気道は転換点にあった。開祖の言われる和の武道とは何か、どのようにしたら体得できるのか、強くなるとはどういうことなのか、今までやってきたような稽古方法で良いのか、等々の疑問点を次々と感じていた。

そんな時、ある師範の私に対する質問をきっかけに私の稽古は１８０度の転換をした。稽古はこの師範の時間しか受けない。自分の稽古場では師範から受身で受けた感じ、言われたことを模索しながらの稽古になった。

腕力を捨てる、型にとらわれない、気を集中する、下腹に力を入れる等を意識し、教えるという気持ちではなく、どの道場であろうと何百人いようとできるだけ沢山の人々と触れ合い、自分の技や動きを自分自身で感じとることを目標にして稽古を始めた。

３年目位が過ぎようやく稽古の方法に方向が見えだした頃、本部道場から「神戸支部へ年４回位行きなさい」との命令をいただいた。神戸支部は現道主直々のお声のかかった伝統のある道場で、横田さんが中心になって指導されていた。私にとって多少の不安をいだきながらの訪問になった。

横田さんの最初の印象は、物静かな雰囲気、淡々とした稽古振りから、かなり年配の方のように思われた。若い、ごつい会員からも、横田さんの技は鋭く痛いとの定評を得ていた。

私はそんな中へ模索中の中途半端な技を持ち込んだ。私はその頃どこの道場でもしていたように、参加者全員に対して、なかば挑戦的に自分の技をぶつけていった。多くの皆さんが初めは大変とまどわれたことと思います。その後も私は神戸支部へは毎回始めての気持で出掛けましたが、横田さんがいらっしゃる時は、稽古中に何か説明

を加えようと思う時でも、意識して生意気な事を言わないように心掛け、気を引き締めることができました。

稽古後の酒の場では、横田さんは必ず私の横に座っていただけたので、いろいろ質問ができ、お話を聞くことができました。また知識の豊富な心の広い意見も沢山伺うことができました。

私の知る限りの神戸支部では、横田さんは扇の要の存在であったと思います。横田さんの合気道に対する情熱と大きい心で神戸支部はまとめられていたと思います。これからは、残った人達は心を合わせて神戸支部の充実と発展を図って下さい。

私と神戸支部とのかかわりは、横田さんが私を指名して本部道場へお願いしたということでした。このことを横田さんがお亡くなりになってから知りました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

横田金典君を偲ぶ

田中茂穂/明治神宮至誠館名誉館長

横田金典君の訃報を聞いたのは、平成6年1月7日の午後である。

まだ正月気分がぬけず、自宅で寛いでいたところ、愛弟子薮下忠良君より電話があった。「横田さんが亡くなったそうです」私はエーッという言葉が出たまましばし絶句。二三言葉を交わすが薮下君も動揺しているのか、去年の12月頃お亡くなりになったようです、という他に詳しい事は判らないらしい。

電話を切ってから、まさか、まさかという思いと共に40年近くにも及ぶ交友が思い出されて、今日まで片時も脳裡から離れることがない。乞われるままに一文を草し横田君を偲ぶこととする。

私が東京大学の教職員、学生と合気道の稽古を始めて暫くたってからのこと。今後は学生中心の運動部にしようと決意し、同志と共に本郷キャンパスの中に部員募集のポスターを貼り、東大の武道場「七徳堂」に植芝吉祥丸先生をお招きして演武会を開催した。昭和30年の4月頃のことであったと思う。

もう記憶も薄れて定かではないが、横田君はこの後、昭和31年頃に入部された。前後して十数名の同期の人々が入部して、以後は学生中心の活発な稽古が開始されたのである。

当時の学生諸君と私は年齢の差がわずかで、師弟などという重々しい関係ではなく、兄弟というか、先輩後輩というような気分で稽古を続けたものである。

この関係は卒業後も今日まで変わることなく続き、年に2回「神代会」なる名称の会を開いて旧交を暖めあっている。横田君は神戸に在住されていた為か、この会でお会いしたことがないのが残念に思えてならない。

入部した時の横田君は工学部の船舶工学科の学生で、物静かな理性の勝れたいかにも東大の工学徒というに相応しい男であった。我が師、葦津珍彦先生が、常々男子の理想は「才須沈才、勇須沈勇」とおっしゃっていたが、横田君はそのような感じの男ではなかったのかと今にして思うのである。

横田君からは学生の時も、卒業後も、感情的な激した言葉を聞いたことがなく、とかく感情に走りがちな私には見習うべき、年少の友であったのである。

横田君は卒業後三菱重工業に就職し、神戸の造船所で勤務されるようになったので、会う機会は少なかった。しかし何かの折、横田君が神戸の道場や警察の道場で合気道の稽古を続けていると聞き、頭の下がるような思いで彼の活躍ぶりを想像したものである。

昭和46、7年頃のことか、たまたま東大合気道OBの山田君が兵庫県警の幹部として赴任し、神戸在勤の東大合気OBと稽古をしようということとなった。私も初めて横田君の稽古している道場で、彼や、尾崎、薮下、山田君の東大合気OBと心いくまで稽古をし、心地良い汗を流した。稽古後は湊川神社に参拝して楠公精神を偲び、同夜は痛飲しつつ歓談したことは、今も記憶に新しいところである。

いつの頃か、横田君が上京して話してくれたことで、作業中の事故で足指を切断したとのことが記憶に残る。「安全靴をはいていたから軽くすみましたが、そうでなかったらもっと大きな事故となっていたでしょう、まぁ幸運でした」と淡々と何事もなかったような話しぶりであった。

私は昭和48年から明治神宮に創設された、総合武道場「至誠館」の初代館長に就

任した。以後御祭神の尚武の大御心を恢弘するべく全力を傾注していたことにより、お互い年賀状で無事を確認し合うのみでなかなか会う機会に恵まれなかった。

昭和６０年代に入り、暫くたった頃、ようやく余裕も生まれ、横田君に会いたくなった。折から豪華客船の新造が報じられたりしていたので、彼の後輩で合気道部々長の工学部の斎藤教授と共に神戸に行き、横田君の案内で見学しようではないかと話が一致した。斎藤教授を通じ打ち合わせていたが、三者の日程が合わず、次の機会をみてということになってしまった。今から思えば、無理をしてでもあの時どうして行かなかったのかと、残念でならない。

人生は「一寸先は闇」とはよく聞く言葉だし、心しているつもりであるのだが、つい油断し、ほぞをかむ。これも人生というものだろう。

沈勇沈才の士、横田金典君の大成と活躍を期待したのは、私一人ではなかろう。そのあまりにも早い逝去が惜しまれ、悔やまれてならないが、今はただ御冥福と御遺族の方々の平安をお祈り申し上げるのみである。合掌。

横田金典兄の死を悼む

泰道直方(東大29期・入学同期生)
エスエス製薬株式会社社長
赤門合気道倶楽部会長

貴兄の突然の悲報に接し、言葉が出なかった。一見飄々としているが、芯の強い貴兄は、相変わらず元気に活躍しているに違いないと信じていたからだ。

東京大学理科一類に入学以来、同級生として、また卒業するまで共に合気道を七徳堂で稽古した仲間として、その後も時々連絡を取り合い、上京の際は良き友として、同期生と共によく歓談したものだ。同期生一同にとっても、最も長く交友のあった、敬愛する貴兄を失ったことは、痛恨の極みである。

大学卒業後、神戸にて仕事と並行して道場を開き、合気道の普及に熱心だった貴兄は、我々東京大学２９年入学組の合気道部ＯＢの中で最も敬愛された人物であった。我々の仲間で一番長生きしそうであった貴兄が、一番早くこの世を去るとは非情である。

七徳堂で稽古をし、汗を流し、小峰君、開発君、青柳君らと夜遅くまで飲み、語った学生時代が、つい先頃のように甦る。

男子の寿命７６才余のこの時代に、還暦を迎えず、家族を残し、幾多の友と永遠の訣別をした貴兄の心情、思い半ばに過ぎる。願わくば、心やすらかに永眠の途につかれんことを心から祈る。

横田さんの逝去の報に接して

山田高廣/六段

私が精武館に御世話になったのは、警察庁に入って見習の時期を兵庫県警で勤務していた、昭和４６年の秋からの丁度一年間である。道場へ御邪魔するきっかけは、大学の合気道部の２年先輩で親しい間柄の藪下さんが、三菱電機神戸製作所にいて、時に精武館で稽古をしていたからであった。

精武館は土曜日曜が稽古日であったから、社会人になって学生時代のように自由な稽古時間が取れなくなり、かといって一人稽古で充実できるほどの力量でもなかった私には、貴重な稽古の場であった。日曜日ごとに、尼崎の独身寮から阪神電車で通ったことは、夢野の交差点の風景と重なって、懐かしい思い出である。

横田さんは、十数年上の大先輩で直接には存じ上げなかったので、道場で初めて面識を得たのである。今でもそうであろうが、学生時代に武道をやっていても、社会人になると繁忙に取り紛れ、あるいは環境や条件に恵まれずして、続けていく人は少ないものである。まして指導的立場で稽古を続けていく人は限られてくる。当時の横田さんは、３０代後半の働き盛りであったから、仕事と両立させるには努力が要ったに違いない。それで随分精力的な人だろうと思っていたのであるが、御会いしてみると、小柄で物静かな紳士であるのが印象的であった。合気道の技や指導ぶりも、人柄通り端正なもので、指導者風を吹かすところが微塵もなかったことも、後輩から見ても清々しく感じられたことであった。

同じ大学の合気道部といっても、私の時代は、古流武術の一つに数えられる鹿島神

流の稽古も併せ行うようになっていたので、横田さんの学生時代とは動きに稍違う面（といっても表面的なことで本質が変わるわけでもないのであるが）も出てきていた。加えて私も学生の延長の生意気盛りであり、先輩の指導する道場という気安さもあって、今から考えれば、大分と好き勝手な稽古をしていたのではないかと思う。何処の道場でも、それなりの独自の雰囲気、大げさにいえば伝統を持っているので、場所によっては、それを攪乱する異物の闖入を認めないところもある訳で、私の我が儘な稽古を許していただいた横田さんや指導陣の寛容さを、改めて謝意を込めて思い起こすのである。

あれから二十数年の歳月を経ているのかと思うと、光陰矢の如しの言が今更の如く身に染みる。私も仕事柄転勤が多く、横田さんには、氏の東京時代に一度お会いしたのだが、神戸の時と変わらぬ風貌のままであった。その為か横田さんというと、今日に至るまで、二十余年の昔のイメージをそのまま抱いてきたのであり、こんなにも早い訃報に接するとは思いもよらなかった。武人の感懐は推測するしかないが、それにしても今の世では如何にも早い亡くなり方である。これも天命かと、ただ御冥福を祈るばかりである。

御世話になりながら、なんの御恩返しもしていない私であるが、曲がりなりにも今日まで稽古を続けてきた。横田さんの志に及ばずとも、道の後輩として、今後とも一生の稽古をしていきたいと思っている。また、横田さんが情熱を注がれた神戸支部が順調に発展しておられる様子なのは何よりの供養であろう。益々の御隆盛を祈念しつつ、拙い追悼の一文を草する次第である。

横田先生の思い出

藤本敏男/西脇道場代表・五段

横田金典先生のお身体が悪いとは、風の便りにお聞きしていましたが、それ程までに悪かったとは存じず、真に驚いた次第であります。

横田先生は神戸支部練習時代から大変お世話になっておりますが、当時がなつかしく思い出されます。今から約２０年前のことですが、横田先生の受身を取ったとき、二教、三教、四教などの関節技の中でも、特に二教は大変よくきいたことを、つい昨日のことのように憶えています。

小生は西脇道場で合気道を教えていますが、横田先生の技一つ一つが現在の自分の技に生かされていると感じ、深く感謝しています。

２０年前は横田先生が遠い存在のように見えましたが、毎日道場に通っているうちに親しみを覚えるようになってきました。十数年前に、神戸支部の仲間たち、村上さん、打越さん、中尾さん等で横田先生の自宅に押しかけたことがありますが、これもまたなつかしく思い出されます。

横田先生は神戸支部の創立期の指導者及び代表者でありますが、これからも神戸支部の合気道が横田先生の御意思を受け継ぎ、技の鍛練に励まれることを希望します。小生も出来ることなら神戸支部に行き、練習をしたいと日頃から思っておりますが、遠く離れていたりすることもあり、なかなか行くことが出来ないのが現状であります。

この頃では、合気道の大先生のとおり、合気道の道が自分の生活であると考えられるようになってきました。それが修業でもあり、自分を生かす道である様に思えます。（少々堅苦しくなってきた様ですが・・・）

最後になりましたが、横田先生の御冥福を心よりお祈り致します。横田先生さようなら。

横田先生との出会いと、倉敷道場

吉沢健/倉敷合気道・五段

今から９年前、私達が両備支部より独立して今の倉敷合気道を開く時に、横田先生には大変お世話になりました。独立して、早いものでもう９年がたちます。その間、先生には、講習会の案内などもたびたびいただき、随分お世話になりました。

練習のたびにお会いしましたが、あまり言葉も多くないのに、口を開くとひょうきんなお話をされていた様子が目に浮かびます。あまり恩返しも出来ずに、本当に残念です。

思いおこせば、初めて神戸でお会いした日も、随分雨のひどい日でした。お葬式の

日もそれは大雨でした。
　これからも一生懸命合気道を続けることが、横田師範の供養になることと思います。神戸の皆様には、どうぞよろしくお願いします。

横田道場長と共に

村上強/事務局・四段

横田先生の御逝去を心からお悔やみ申し上げます。
私が神戸支部に入会したのは昭和４１年３月でしたが、以来２８年間の長い年月にわたり御指導いただき本当に有難うございました。
「光陰矢の如し」で年月の経過は夢のようです。現在に至るまでには山あり谷あり、修養の過程でいろいろと紆余曲折がありました。なんとか続けてこられたのは、横田先生の誠意ある熱心なご指導と、アマチュアリズムに徹したなごやかな雰囲気の中での稽古のお蔭と思います。
横田先生の思い切りの良い、切れのある技を受けると、本当に身が引き締まる思いでした。習った技をノートにつけるという習慣がいつしかつき、現在数冊にのぼっています。私の身につけた技は、ほとんど横田先生に習ったもので、これを基盤に合気道に精進したいと思います。
横田先生の御冥福をお祈り致します。

‘男の教室’

中尾眞吾/四段

あーぁ、今日も何回めの溜息だろうか。もう横田さんはいない。

日曜日朝１０時、精武館に横田さんの車が横付けされる。大企業トップの人の車「デボネア」ではなく、大衆車「ランサー」である。
服装はいつも地味ー暑さ寒さを防げたらそれで良し・・・。ネクタイは何年も一緒、背広もずーっと同じ(そうですね奥さん!?)つい半年前には「老眼鏡」を新調され、私達に見せびらかしていたのも微笑ましい思い出になってしまった。メガネの奥の眼に、魅力の一杯詰った人でもあった。
この横田さんとの稽古前の２０分ほどの時間は、私には貴重な「男の教室」であった。この人の大事なモノは、物ではなく人間そのものなんやろな、と思ったものだった。

「恐怖の四方投げ」何度頭を打たされたことやら。何でこんなに痛いの！「二教」。けど横田さんの手が離れた途端、ウソの様に痛みは消えるのだ。不思議な体験だ。
どの技も、Ｔ定規と三角定規と精密なコンピューターを駆使したような横田さんだけの横田流合気道だった。（誰がこの技を継げるのだろう・・・？）
五十数キログラムしかない軽量の横田さんが道場狭しとスキップし、大きな相手を投げ廻る。正に合気道！見ているのは楽しかったけど、「受け」の時は、お・と・ろ・し・か・っ・た・な。

あーぁ、もう横田さんはいない。「シンプルライフ」そのものの生き方をされた横田さん。「男」そのままだった横田さん・・・だった。合掌。

あーぁ・・・。

上を向いて歩こう

小久保宏/四段

横田先生の四方投げ、入身投げ等の受けを取った方は多いと思いますが、投げのスピードと強烈なフィニッシュで頭を打った人はたくさんいると思います。あまりに強烈なのでそこまでやらなくてもと思いましたが、先生の受けを上手に取れるようになれば最高でしょうか。
頭を打つのがわかっていてそれをかわせないのが悪い、下手だといわれても仕方ないでしょう。近年はなんとか逃げて、頭を打つのだけはどうやら避けられるようになりましたが、これも先生の思いやりで、手加減してくれたのかもしれません。
まだ色々とご教授いただきたいことが多々ありましたが、誠に残念なことです。でも、一つだけ先生にお誉めの言葉をいただいたことがあります。忘年会で坂本九の「上を向いて歩こう」を元気よく歌った時、大変誉めて下さいました。これだけでした。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

横田人気の仕掛け人は・・・

和田越子/三段

ほぼ４年ぶりで合気道を再開した。もう少し子育てが一段落してからと思っていたのだが、横田先生に指導していただいた精武館で、どうしても今、始めたかった。

私が精武館で稽古を始めた頃、ちょうど東京勤務をされていたので、先生といえば、年に一度の試験で遠くからお目にかかるだけで、何年間かは「道場長」としての横田先生しか知らなかった。そして初めて手を取っていただいた時、何の技だったのだろうか、とにかく鋭い技に、「すごいな、強い！」と感じたことを憶えている。

新年会、厳しい技とは違い、ユーモアたっぷりに話をしてくださる。いっぺんに“横田びいき”になり、遠ざかりぎみだった私の足はまた合気道へ。ちょうどこの頃、女子の人数も多く、“横田人気”もうなぎのぼり。でも、その火付け人は私だったと自負している。

横田先生の技というと、四方投げのイメージが強いと思うが、入身投げ、天地投げなども特徴があると思う。誰かが「定規ではかったような・・・」と表現していたが、本当にムダを一切はぶいているようだった。

基礎の基礎、体の転換（今思えば段を頂いてからもずっと体の転換を教えて頂いていた！）の時、“手の平の水をこぼさないように”とわかりやすく教えていただいているのに、毎週同じことを言われ、自分の記憶力の無さを思ったりしたものだ。壁や柱に手をあて、四方投げや体の転換の説明をしてくださった姿も目に浮かぶ・・・。

先生の訃報を耳にした時、もう何も信じられない、合気道なんてもうしない、合気道を一生懸命していた頃の思い出と横田先生が重なり、ひとつの時代が終わったような寂しさと無常感に包まれた。

でも今は、横田先生に指導していただいたことを誇りに思い、合気道が出来ることにもっと謙虚な気持ちをもちたいと思うようになった。

道場のみんなで五助ダムへハイキングに行った時、バーベキューを待つ間に、先生は大きな声で「青春時代」を歌われた。青空とビールに上機嫌の先生の笑顔を思い出す。横田先生、どうぞ安らかに・・・。

冬空にそびえ立つ山のように

松平秀利/三段

私が合気道を始めたのは昭和５１年１月だったと思います。たしかその時、横田先生は仕事か何かの都合で道場に顔を見せておられず、道場に名札がかかっていたので、名前を知った次第です。ただ、道場の方達から、「大変に厳しい方」であると聞かされており、「きっと筋骨隆々で、目のぎらついて、大声で稽古をする人だろう」と一人勝手に想像しておりました。

それから約半年ぐらいたってから道場にみえられたと思いますが、何分自分勝手に想像していたイメージとは随分違っており、袴にかかれていた名前を見て「ああ、この人が横田先生か」と、初めて知ったわけでした。

一見したところ、学者さんか医師という感じで、どちらかというと優男というイメージですが、その後、道場の方が言われたことが、この私の身をもって証明されるとは・・・。今もその時のことは忘れられません。

その技は三教をきめてから、相手の肘を自分の脇へしまい込むように折りたたんで、手の甲を押さえて五教をきめて投げるという技でした。（この表現でご理解していただけたでしょうか？）まだ初めて半年、受身を覚えはじめた頃ですから、モーレツにきいて思わず涙をこぼし、受身をやっととれたのを一生忘れられないでしょう。「初めて間もない人にも随分きついのだなぁ。ひょっとして私だけじゃないか」と思って見ていると、誰にも正に分け隔てなく稽古をつけられていたように思います。

いつも物静かでいて、絶対といっていいほど大声を出さず、クールな感じで指導されていたように思います。その技は冷たくすき透った冬の青空にそびえ立つ山のように、心をピンと緊張させられる技だったと思います。

稽古の最中でもジッと見られていると、何かしら緊張させられたのですが、稽古が終わると人なつっこい笑顔（とくに合宿等の宴会）で話され、時々その笑顔が浮かぶたびに、ひとしお寂しさがただよう現在です。

私とは親子ほど年が離れているせいもあ

り、「何か近づき難く、遠くにいる人」という感じでしたので、稽古以外のお付き合いはないものと思っておりましたが、実にプライベートなこと、即ち、私たちの結婚に際し、お仲人をしていただけるとは考えもしなかったことでした。その際も、横田先生ご夫婦には大変親切にしていただき、結婚後も優しく見守っていただき、現在も稽古を続けることが出来ております。

昨年か、一昨年かの合宿であったと思いますが、「あんたはいつまで合気道を続けているかな？」と、笑いながら聞かれたことがありました。その時は答を出さずじまいになりましたが、６０才でも７０才でも、体が動かなくなるまで稽古を続けたいと思います。

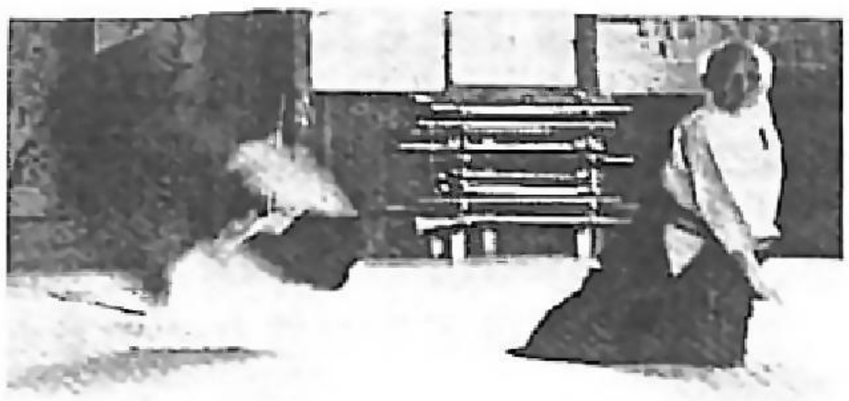
かつて精武館通信で、精武館の草創期の事を知ったわけですが、会社の中で重要なポストに就かれ、大変忙しい中で今まで運営・指導されることは、大変な苦労を伴われたのではないかと思われます。社会人として勤めながら合気道を続けていくことの素晴らしさを、身をもって教えていただいたのだと思います。

こうして書けば書くほど、思い出がまるで泉のごとく湧き上がってきます。考えてみれば、横田先生はきっとこう言いたかったのだと思います。「偉ぶらず、淡々と稽古を積み自己を磨きなさい」（私自身の勝手な推測ですが・・・）

かつて浜崎先生はこう言われました。「合気道の稽古は、一つの行、即ち修行なんだ」と。そのことを横田先生は言葉ではなく、稽古の中で教えて下さったものと思います。

やがて私も忙しくなっていき、又、身の回りでいろいろあり、なかなか稽古も思うように出来なくなることもあるかもしれませんが、出来る限り、いや絶対に稽古を続けます。

最後に心よりご冥福をお祈り申し上げますと同時に、合気道の素晴らしさを教えていただきましたことを、心より感謝致します。



教えられた基本の大切さ

草野嘉之/三段

今年の元旦は世相とは裏腹に、申し分ない天気となり、素晴らしい日の出を見ることが出来ました。ただ今年の元旦がいつもの年と違うのは、いただいた年賀状を見ていて、横田先生の年賀状が見当たらないということです。今年もきっと、「草野君、無理をせず楽しくやりましょう」といわれている気がします。

先生とお話をしたのは確か去年の１１月初めだったと思います。病院から帰られたということを聞き、さっそく電話を致しました。その時は大変元気な声で、「大分良くなったよ、もう少し休んだら道場へも顔を出すことができるよ。草野君も無理をしないようにやって下さいね。」と・・・。この会話が先生との最後になろうとは思いませんでした。

精武館で１８年にわたりご指導を受けました。多くの合宿にも参加し、楽しい場を過ごさせていただきました。この間に私は知らず知らずに何かを教わっていたように思います。

先生は指導にあたって一つの型を持っておられていたように思います。必ずといっていいほど、初めは座り技一教、二教・・・。この繰り返しが知らず知らずのうちに何かを教えてくれたんだと思います。それは基本の大切さです。

基本は簡単なようで、実は大変難しいものだということ、そしてこのことを身につけると大きなパワーに変わるんだということを知りました。何事においても基本のないものはありません。基本理念、基本方針、基本構造というように、またスポーツの世界にも基本があります。それはその目的に重要な考え方が組込まれているからではないでしょうか。基本に忠実であるならば、必ずメリットを味わうことが可能であることを教わったように思います。ただし努力と時間がかかり、決っしてイージーゴーイングではないことも知りました。そしてこのことはチャレンジに執念も欠かせない大切な要素であることも教えていただいたと思います。

また先生が社会人として、会社の要職に就かれ、大変御活躍されていることは、人

づてに聞いておりましたが、告別式に参列して、改めてその偉大さにびっくりした次第です。

１８年間道場で、合宿先で、そして楽しい宴会の場での先生の振舞いは、よく酒を飲み、歌を歌い、そして夜中にかけて、武道の、仕事の、人生の話をいたしましたが、一度として驕ることを見たことがありません。常に驕らず、卑下せず、上でもなく、下でもない。私もみんなと同じなんだという気持ちで接しておられたと思います。

人それぞれこの世に生まれてきたからには、何がしかの役割を持っていると思います。そして仮にその役割を終えた人が天にめされるとしたら、なんと哀しいことでしょう。凡人の私にはまだまだ先がありますが、これからも自分に与えられていることにチャレンジしていきたいと思います。それが生きることの基本と思われるからです。

今日まで御指導していただき有難うございました。これからも無理をせず楽しい合気道を続けていきます。さようなら。合掌

横田先生の思い出

山崎昭彦/三段

日曜日の稽古になると、横田先生と稽古が出来る。横田先生の技は簡単そうで、実は簡単には真似できない凄さがあった。あの体で、大の男が簡単に投げられてしまう。特に、四方投げは凄かった。何回も頭を打ちそうになり、そのたびに恐怖を感じたものだった。

それともう一つは「二教」である。横田先生に「二教」をされると、体が吸い付いたように離れることが出来なくなってしまう。

横田先生の古武道に似た技を、もう稽古出来ないなんて残念でならない。横田先生に教えてもらったことを、今後の私自身の合気道に生かせるように、精進したいと思います。

最後に先生のご冥福をお祈りします。

先生、やめへんでー

小坂君子/三段

身体は小さいのにメチャクチャ合気道が強い！ 技がきれる横田先生。先生の受けをとる時は緊張して、いらぬ力が身体に入ったものです。先生の四方投げ、入身投げはとびきりスゴかった。真似しようにもできなかった。“横田流”と我々が呼んでいたが、あの素晴らしい合気道を、もう見ることも、指導してもらうこともできないのかと思うと、残念でならない。

合気道をはなれると、やさしくて穏やかな笑顔をたやさない横田先生。政治から経済、芸能・・・と話題が豊富で会話がとても楽しい。そばに居るだけで、ホッとするあったかいお人でした。

私が合気道を始めて数年たった頃、ある宴会の席で「あんたはすぐやめると思ったけどなぁー」と首をかしげて笑いながら話されたことがあった。なぜか１５年たった今も合気道の魅力にとりつかれ、はなれられないでいる。横田先生の技を継承し、これからも合気道を続けていきたい。

～横田先生のご冥福を心よりお祈りいたします～

横田先生を偲んで

山下秀夫/三段

横田先生は合気道をこよなく愛し、精武館を我が子のように見守り育て上げ、世間一般の地位・名誉・利害関係とは無縁の精武館仲間とのひとときの交わりが気に入っておられたようでした。

何年か前の丹波篠山での合宿では、夜が更けるまで船長さんとの合気道談議に熱と酒が入ってしまい、翌朝のランニングは二日酔いで出てこれなかったことや、打ち上げの宴会後の二次会ではみんなにディスコに引っ張られてしまい、みんなのダンスとはいえない奇妙な踊りを楽しそうに眺められていたことがありました。練習後にみんなとお酒を飲みながら四方山話に花を咲かせている時の、にこやかな笑顔が思い出されます。

横田先生が御他界され、もの寂しい気がしますが、私たちの心の安らぎ・心身の鍛

練・合気道の研鑽の場である精武館というかけがえのない財産を、多くの方の援助・協力のもと、中心になって築き上げ、残していただき、感謝の気持ちで一杯です。

横田先生の姿はもう肉眼では見えませんが、精武館に行けばまた暖かく見守っていて下さるような気がします。

私は現在は仕事に追われて、残念ながら合気道の練習はひと休みの状態ですが、合気道は私の人生にとって大切なものであり、忙しさにかまけていたずらに時を過ごしてしまうことの無いように、早いうちにまた精武館道場へ足を運んで行けるようになりたいと思います。

会社では多忙な要職の身にありながら、ご家族のご理解のもと、道場長という立場で長い間私たちをご指導頂き、本当に有難うございました。

慎んで横田先生のご冥福をお祈り申上げます。合掌。

先生、御苦労様でした

森益美/二段

横田先生。最後の最後まで、御自分の人生を頑張り通された事に深く敬意を表します。御苦労様でした。

慎んで御冥福をお祈り致します。

横田先生の秘密

中尾明子/二段

平成４年の９月、第二道場の５周年に、日帰りバス旅行をしました。その時、日頃のお礼にと、横田先生ご夫妻をお招きしました。帰りのバスの中の挨拶で、４０年近くかかわってきた合気道の良さ、楽しさ、素晴らしさを、初めて家内にも共に味わってもらえたと、非常に喜んで下さったのが印象的でした。

去年９月１３日にお見舞いに家にお伺いした時、奥様のことを、「けい子ちゃーん」と呼ばれるのを耳にし、　　夫も、私も、思わず椅子からずり落ちてしまいそうでした。

毎日曜は合気道、家庭サービスは後回し、もちろん会社のゴルフは他の日に・・・だったとの事です。奥様は棺の中に道着を一緒に入れて下さったそうです。きっと退屈しないでしょうと・・・。

大好きだった横田先生！安らかにお眠り下さい。頭から足先までの疲れが一度に吹き飛んでしまう二教。問答無用の合気道。厳しさの中に深い思いやり。「明子さんはいつも元気でいいなー」見てて下さいね。体力の続く限り、転がり続けますからね・・・。合掌。

後ろ姿に学ぶ

佐伯公宏/二段

先生の訃報を受けたのは、１２月９日の昼でした。いつかは復帰されるものと信じていましたが、突然の知らせに「早すぎる」という思いで一杯でした。

先生に教わったのは、わずか６年足らず、先生に教わった技も充分できないままで、これから、もっともっと教えていただくつもりでしたから。

印象に残る技はいろいろありますが、手加減無しの二教、三教や、足元からすっぽ抜かれるような四方投げは本当に強烈でした。合気道の厳しさと受身の大事なことを思い知らされました。

先生は、温厚な人柄の中にも、まわりに流されない毅然とした姿勢を持っておられたように思います。そして、私はそんな先生の後ろ姿に、合気道に対する心構えや姿勢を教えていただいたような気がします。

「必ず崩れる位置というものがある」とおっしゃった先生の言葉が強く心に響いています。短い期間であれ、先生に教えていただいたことに深く感謝いたします。

天国の横田先生へ

山部佳子/二段

横田先生、１２月に先生の訃報を聞いた時、本当にショックでしたよ。涙が出て止まりませんでした。１１月の終わり頃にみんなで、「早く元気になって！」と手紙を書いたばっかりだったんだもの。

精武館での稽古はとても楽しかったですね。横田先生は、毎回私のところで立ち止

まられて、文字通り、手とり足とり、長い時間をかけて教えて下さいました。最初は言われた通りできなくて、先生もじれったかったことでしょう。１回でもうまくいくと、先生はすかさず、「おっ、うまいなぁ」この一言がどれだけうれしかったことか・・・。横田先生ありがとうございます。

いつかの忘年会の席で・・・。一諸に「二人の大阪」を歌いましたよねぇ。肩を並べてデュエットができるなんて・・・ちょっぴり緊張しながらも、ワクワクしながら歌ったこと、今でも鮮明に憶えています。先生はいかがだったでしょう？

去年の３月、大学の卒業で神戸を離れる私の送別会をしていただいた時のこと、横田先生もお忙しいところ、来て下さいました。先生からのはなむけの言葉、「君なら、きっといいお嫁さんにもなれるよ」。横田先生、私の揚げた天ぷら、おいしかったですか。私、おうどんだって作れるのよ。

思い出すのはいつも変わらぬ笑顔で、微笑んでおられる横田先生。「君は若くていいねぇ。今が一番いいね」いえいえ、先生の合気道をしている姿の方が、ずっと素敵でかっこよくて、良かったですよ。私は横田先生のファンですから。

まだまだ一緒に稽古もしていただきたかったし、いっぱいお話もしていただきたかったのに、本当に残念でたまりません。だけど私もがんばります。ちゃんとした人生を歩んでいきます。だから、見守っていて下さいね。心より合掌・・・。

名古屋でも稽古しています

阪野英之/二段

早いもので、仕事の都合で神戸を離れてから、もうすぐ４年になる。何か機会あるごとに精武館に行きたいと思ってはみるものの、名古屋と神戸といった距離の関係もあり、このところはずっと御無沙汰をしてしまっている。合気道そのものは、現在も東山公園の近くにある「合気道名古屋道場」で稽古を続けている。

自分が精武館で合気道の稽古をするようになったのは、やはり転勤で神戸に来たからであった。神戸に来る２年ほど前から合気道を始めていたので、神戸でも引き続いて合気道をやろうと思い、合気道の本の後ろの方に書いてある道場案内を見て、精武館を訪れたのであった。それからの４年間、精武館で稽古することができた。この４年間は、一生忘れることができない充実したものであった。

その間、お世話になった横田先生がお亡くなりになった。最初、連絡の手紙をいただいた時、しばらく意味が理解できなかった。ずっと入院されていたことも知らなかった自分としては、日曜日ごとに元気で指導して下さっている横田先生の姿と、独特の切れのある技しか思い浮かばない。その横田先生が亡くなられたなんて・・・。神戸を離れていただけに残念でならない。今となっては、横田先生のご冥福をお祈りするしかない。

今の名古屋道場でも、合気道の稽古をするとき、時々「横田流入身投げ」をしたりしている。今後とも、合気道はできる限りずっと続けていきたいと思っている。横田先生の教えを、自分の合気道に生かして。

‘裏三教’の思い出

西垣保孝/二段

道場長・横田先生の突然のご逝去に驚き、心からお悔やみ申し上げます。これから横田先生にみっちり教えていただくことを楽しみにしていただけに、誠に残念でなりません。

私は平成５年春、秋田大学を卒業し現在、県立西脇工高に勤務しています。大学では合気道部で４年間稽古に励んでまいりまして、この春に本道場へ入門しました。従って先生の見取り稽古は数える程ですが、それだけに直接手を取って教えていただいたことは、大変印象に残っています。それは、一度‘裏三教’をかけていただいた時のことです。

私が先生の前にヒョイと左手を出したとたん、左手はがっちりと決められてとても逃げることが出来ず、自分の腰を叩いて「参った」の合図をしました。まさに‘裏三教’の痛みでした。

あまりお話もしませんでしたが、先生は物静かで研究熱心な方とお見受けいたしました。そのような先生の姿を師と仰ぎつつ

道場に通っていました。先生がいなくなった今こそ、さらに精武しなければと心を新たにする次第です。

終わりに、改めて先生のご冥福をお祈りいたしまして、追悼の意とさせていただきます。

先生、お世話になりました

松平貴美子/初段

私が合気道を始めたのは昭和５７年６月、結婚により休みに入ったのが６２年３月。この期間は横田先生がまだとてもお元気で、日曜日にはほとんど来られていた頃で、よく稽古をつけていただいていました。横田先生に教えていただいたことを基本として、いろんな人の教えが理解でき、技にひろがりができたと思います。

合気道でもお世話になりましたが、日常生活の方でも、お仲人をしていただいて、奥様と共にお世話になりました。特に上の子が１才の時に、お年始のごあいさつにおうかがいした時、子供がお尻で障子を破り、ジュースをひっくり返してしまい、内心パニックになりながら謝ると、先生も奥様もやさしく、「子供はしてあたりまえですよ」と言って下さった上に、子供にはお年玉を、私たちにはブランデーとスモークサーモンを持たせて下さいました。

今思いだしても、申し訳ない気分ですが、その時の横田先生のやさしい顔は今でも忘れられません。合気道の稽古や技などには厳しいけれど、本質はとてもあったかい方だったと思います。

それ以後のお正月は、予定が合わず行けませんでしたが、昨年の夏一時退院されたばかりの頃に、お家の方にお見舞を持って行った時にお会いしたのが最後でした。その時は、お疲れになっては・・・と、家にも入らずすぐ帰ったのですが、今にして思えば下の子を連れて少しお話しすれば良かった・・・と残念でなりません。それから半年、横田先生は亡くなられてしまいましたが、私たちの心の中には、ずっと生き続けておられるような気がします。

今、子供や仕事に時間をとられ、自分の稽古が出来ず、体力もなくなって、いつから始められるかわからない状態ですが、早く始めることができるよう心がけて、体の動く限り合気道を続けていきたいと思います。

道場長、ずっと待っています

曽川治/初段

私はまだ、追悼の言葉は言いたくない思いです。日曜日ごと、精武館道場の前に愛車を横付けされて入ってこられる道場長を待っていたい思いです。

私が初めて精武館へ合気道の見学に伺った日は、故横田道場長の稽古指導される日曜日でした。指導されている姿を拝見して、物静かで温厚な方のように受け止め、安心（少々不安）をして、最年長（？）入門をした次第です。

道場長は稽古中私に指導して下さる時は、「こわれ物（者）取り扱い注意」なみにしていて下さいましたが、時々私が「いて！」と悲鳴を上げたり、飛び上がったりすると、いつも笑って、私の背中を“ポン”と叩いて、次の人に指導されていました。

道場長が身体の調子を悪くされて、入退院を繰り返し、最後に精武館に来られた日、私が「先生、お身体のご様子はいかがですか」とお伺いすると、「あまり良くない、タイショウ（私のこと）も、あまり無理をせずに、身体に気をつけてな！」と言われたのが、いつまでも心に残り、いろいろな意味で、お別れの言葉であったのかと思ったりもします。言葉の少ない、温厚で冷静な道場長の存在の大きかったことを感じつつ、ひたすらご冥福をお祈りして・・・。

爽やかな合気道

池内信也/初段

私と合気道の出会いは、即ち、横田先生との出会いでした。精武館にて、その技は強烈にして、気がつけば、畳に舞い散るちり芥の如き自分を見い出す。このような先生の教えを受け続けるうち、恐怖であったのが、いつしか熱心に学ぼうというような姿勢に変化していきました。そのようになるまでに４年ばかりかかりましたが。

先生は申すまでもなく、物静かで優しげ

な方です。普段から無駄口をきかれることも少なく、新米なおりの私にすれば、近付き難い方のように感じられたものでした。しかしながら、２０年３０年選手の“合キチ”諸先輩方を相手に楽しげに、そして時にはユーモアを交えて話しておられる姿は印象的でしたし、同時に、「よし、いつかは自分も先生に親しく声をかけていただけるよう稽古をがんばろう」とも同時に念じておりました。

初段を頂いてから、より先生を身近に感じさせていただけるように思われたことは、私にとって大変嬉しく、それは、励みへとつながりました。とはいっても、若輩で口下手な私は、先輩方のような談笑に加われるわけもなく、以前よりも質量ともに多くご指導をいただけるようになったことや、まして、先生が技の範を示される際の、その“受け”に私を指名して下さるようになったことなどが、なによりの喜びだったのです。

合気道について先生のおっしゃることは、いつも単純明快であったように思われます。合気道は奥が深く幅が広く、ある意味で自分には、まだまだとらえどころがないように感じられます。だからこそなのか、横田先生の実践される爽やかな稽古が今更偲ばれてなりません。

ある時、先生は、言われるとうりになかなか技が出来ない私に、「もっと工夫しないとなぁ」とおっしゃったことがあります。その時、私は内心うなるばかりでしたが、先生ご自身はむろんのこと、諸先輩方を思い浮かべると、妙に納得できる気がいたします。このように物分かりの悪い私にも、丁寧にご指導下さった先生でした。最後に一つ、合気道に直接関係はないのですが、かつて、先生が要職を勤めておられた会社で、私の父に会ったと告げられたことがありました。その際、先生は私に、父の経歴をさりげなくお尋ねになったので、私は正直に、父は養成工（中学校卒）出身で役付では無い旨を答えましたところ、先生は感心された様子で大きく頷かれました。

私にとっては、学歴も無く叩き上げである父を、ある意味で誇りに思っていましたので、何かしら非常に嬉しかったのが心に残っています。

私の中には、その技と共に、先生の謙虚なお人柄がしっかり息づいています。これからも稽古に励みたいと思います。それが合気道と、それに励む人々を愛された先生へのご供養になりますことと念じつつ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

Live and Enjoy Our Lives

Adams Frank

I was really really sad when Yokota-sensei died. First of all, he was so young and that made me see how important our health is. Material things such as houses, cars, clothes, jewelry, etc., etc., all means nothing if we don't have our health. We need to live and enjoy our lives as much as possible while we can. Also, I very much regret losing the chance to learn Aikido from him any more. I feel that I was just beginning to recognize and understand just a little bit of Aikido and he could have helped me. Yokota-sensei was a kind man who always took the time to explain to a poor student. I will try to have his patience and wisdom in my work teaching English and as a parent in the future. Finally, I never again want to have any regrets because I lost or wasted my chance to do something so I'm now making an effort to study Japanese after taking a 4-year break. I will miss Yokota-sensei but I must do my best with his spirit.

アダムス・フランク

横田先生が亡くなられこころから悲しく思います。なんといっても先生の死は早すぎますが、しかし、先生は身をもって、みんなに健康がいかに大切かということを教えられたのだという気がします。家や車、着るもの、宝石などさまざまなものも、健康でなければ何の意味も持つものではない。可能な限り最大限に人生を楽しむべきなんだ、ということを。そして、再び横田先生から合気道を教えていただけなくなったのが残念でたまりません。

合気道がどういうものか、ほんの少し分かりかけてきた気がしていますが、それは横田先生のお陰だと思います。先生はやさしくて、私のようなおぼえの悪いものにもいつも説明の時間をさいてくださりました。私は、先生の辛抱強さと賢明さを、英語教師の仕事や、将来の子育てに生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、いつまでも残念がることはやめにしようと思います。もう二度とチャンスは無いのだから。また、４年間中断していた日本語の勉強を再開しよう。

もう再び横田先生にお会いすることはできませんが、先生の心と共に、これからの人生に全力を尽くしていこうと思います。

船と合気道を愛して

Ｍ・Ｍ

１０年近く前のある日、横田先生をお家にお送りすることがありました。車の中で私が船のことをいろいろお聞きしていると、その時先生はこのように話されました。

少年の頃、初めて大きな船を見学に行かれたそうです。その時の感動から、造船技師になろうと決意されたそうです。また船のことをこのように言われました。船は大きな鋼鉄の塊のように見えますが、大海に浮かぶと、風船が水に浮いているようなものですよ。

先生にとって、船が本当に愛しいもののように話されていました。厳しい合気道の中に見る先生の優しさの側面を見せていただいた事を、横田先生を語るときいつも思い出します。

Thanks for Yokota-Sensei

Miryam Huchet (From CANADA)

Yoshiko-san told me sad news about Yokota-sensei's death. I was very sad to hear this news. Please tell his family and also all the members of Kobe dojo that;

Philipp and Miryam are thankful for Yokota-sensei's kind teaching. We will always remember him as one of our first Aikido teachers. Yokota-sensei wrote us a very beautiful, poetic letter in very good English - just a few months before he died and this letter I keep as a reminder of his generous sprit. We miss Yokota-sensei too! Isn't it special that he died on the same day he was born? We pray for family and friends.

ミリアム(カナダより)

山部佳子さんから、横田先生が亡くなられたという知らせを受け、深い悲しみにおそわれています。ご家族と練武館道場の全ての仲間たちへ以下のメッセージをお伝えください－

私たち夫婦は、横田先生から受けた親切なご指導に対し心からお礼申し上げます。合気道の最初の先生の一人として、先生を忘れることはないでしょう。

横田先生は、亡くなるちょうど1ケ月前に、英語で書かれたとても素晴らしい詩的な手紙を送って下さいました。この手紙を先生の大きな心の形見とします。私たちも横田先生がなつかしくてたまりません。誕生日に亡くなるなんて何ということなんでしょうか。

先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

横田先生、見ててください

片山瑞穂

横田先生は私の大好きな先生でした。横田先生は私が稽古をしていると、いつもいつのまにか横にきて見物していました。私は毎回、今日こそは横田先生にいいとこを見てもらうゾ！と思っていたのに、先生が横に来ると緊張して、よけい下手くそになりました。そして見物したあと、「もっと動作を大きく・・・こういうふうにね」と言って、私を投げとばして、いつも去っていきました。

今思うと、横田先生にほめてもらおうと、がんばって練習を続けてきたんじゃないかなぁと思います。私のかっこよくきめた姿を、一度も横田先生に見せられなかったのがとても残念です。

横田先生、私は何十年後かには、きっと先生よりうまくなってみせるで～！

♡♣ 子供クラスのコーナー ♠◊

始めてから1年たって

西沢荘平

ぼくは、合気道を始めてから１年がたちました。１年間していると、友達が多くなり、とても楽しいと思っています。１年に１回ある合気道の試験は２回目で、１回目と変わらずとてもドキドキしていました。試験が終わり、結果を聞いてみると、満点に近かったといわれ、この時、毎週練習したかいがあったと、心の底から思いました。１年もたってみると、むつかしい技をする時もあるけど、先生がちゃんとおしえてくれて、わかるようになってきました。ぼくは、合気道を１年してみて、もっとたくさんの技がしたいと毎週きてみて思っています。

合気道について

石川千晶

私は、合気道という名前も全く最初は知らなかった。でも、友達に紹介してもらってから少し知ることが出来ました。習いに行ってからも少し不安ながら、土曜日には、結局は楽しんでやっています。運動は苦手だし、できないけど、合気道をやっていてとてもためになったと思います。わざもなかなか覚えられないけど、少しでも覚えたいと思います。

いつもすぐあきらめてやめてしまう方だけど、まだ合気道は続いているから、少しは進歩したと思います。どこまでやっていく事ができるか分からないけど、できるところまでやりたいと思います。

私は、合気道や少林寺などというようなのがやりたかったから、よかったと思っています。合気道や少林寺などをいろいろやりたいなと思いました。

合気道について

石村裕子

私にとって、合気道はかけがえのないものです。初めて、合気道を見た時、私は、とってもわくわくさせられ、やりたいという気持ちが、心の中にいっぱい広がりました。だんだんとやっていると、やっぱり、私は、自分で思っていたよりも楽しく、時間は、あっという間にすぎています。次は、どんなことをするのかなぁと思いながら、正座をして、いろんな技を見るたびに、おどろきと楽しみで頭がいっぱいです。つい、９ヵ月前ぐらからしているので、まだそんなにうまくはないけれど、たくさん覚えて、たくさん練習して、今よりもよりいっそう、うまくできるように、これからもがんばっていこうと思います。まわりの人達に教えてもらったり、教えたりしながら強くなりたいです。そして、大きくなって、自分の身を守ったり、他の人たちに合気道というものを知ってもらいたいです。

合気道をはじめて

小椋信行

ぼくが合気道に入門したのは１１月でした。合気道に入門した理由は、内田君に誘われて入ったのと、自分に根性をつけようと思ったからである。

はじめは、かたそうな雰囲気のところだろうと思っていたのだが、小学生の子がほとんどで、みんな明るかったのですぐなじめた。

年に１度進級テストがあるんだけど、そのテストが１２月だったために、出席日数が足りずに、テストをうけられなかったのが残念だった。

ぼくは、どれくらい練習をすれば、実戦に使えるようになるかわからないが、ぼくはこの合気道を続けていきたいと思っている。

合気道

村上真理子

わたしは、合気道をならったのは、２年生の３学期くらいです。毎日、みんなはがんばっています。でも、たまに遊ぶときもある。そのときは、中尾先生がおこるときがある。そのときは、ほんとうにこわい。

でも、がんばって、がんばってやった。やってきたら、だんだんたのしくなった。そのときは、合気道をならって、よかったなーとおもう。つらいときがあるそのときは、みんながやっているところをみると、そのまた元気になる。でもふしぎ？ 中尾先生が休みだったら、なんか、みんながすくなくなる。そのときが、とってもふしぎ。

でも、わたしは、５回ぐらい休みをしてしまったことがある。でも合気道は、ぜったいにがんばって、ゆう名になってみせる。

あいきどうのしけん

にしざわえり子

きょう、あいきどうのしけんがあって、あいきどうの、まりちゃんといっしょにして、てんちなげが、とてもむつかしかった。

９級になったから、うれしかったです。うけみを、みんながみてたから、ちょっと、はずかしかったです。ちょっと、うけみをわすれてしまいました。どうやればいいか、はじめのほうで、ちょっと、わからなかったです。

いろんないいところ

因幡健

合気道４年目で、だいぶ技もおぼえたし、うまくなったかなあと思うようになりました。それと、もう一ついいことがありました。それは、生活で技をつかったりするんじゃなくて、力がついたということです。力がついたら、いろんなことで役立つからです。いっしょに習っている友達の子も、うまくなっています。

おしえ合いをしたり、いろんなことをしていくうちに、楽しみながらおぼえれるから、いいなあと思った。だから、しっかりやって、だんだんうまくなっていったらいいなあと思った。それと、している時にふざけたりあそんでいたら、だめだから、なおすようにしたい。

えがおがいっぱい

よしまつ さよ

とてもさいごのところが、たのしいし、なかおせんせいも、むらかみせんせいも、すごくやさしいです。いつもげんきですね。みんな、えがおがいっぱいあるとおもいます。

あいきどうのたのしかったこと

よしまつ あや

わたしは、あいきどうをはじめてから、とてもたのしいです。わたしのいちばんたのしいのは、みんなといっしょに、もろてどりをしたり、さいごにたいそうをしたりすることです。なぜかというと、さいごにたいそうをすると、いままでのくるしかったことがすーと、からだぜんたいのきもちがよくなります。それに中尾先生も、村上先生も、とてもやさしくて、あいきどうのことも、いろんなことも、すごくねっしんです。それに、あいきどうのみんなもしんせつです。でも、ときどき男の子が、口でもんくをいってきます。でも、わたしが、なんてこというの、といったら、ちゃんとあやまってくれるから、やっぱり、やさしいなと思いました。だからこれからも、あいきどうがうまくなりたいから、みなさんよろしくおねがいします。

特別ルポ・昇級昇段審査の一日

打越明夫/五段

平成６年３月５日は朝から素晴らしい天気で、春の訪れを思わせる暖かい日でした。

普段の道場の稽古は朝１０時からですが、この日はもう２０人くらいの人が自由稽古をやっていました。

審査は２時間位かかりました。級を受ける人は２５人、段を受ける人は２人。こんなに多くの人が受けたのは今までで初めてのことです。緊張していた人もニコニコしながらやっていた人も、皆さん無事に昇級昇段しました。

終ってから灘屋さん（中尾さんの店）で早速、廖さんの写してくれたビデオを見ながら反省会です。この歳で試験など何年ぶりのことやろと言う人、自分の合気道の姿を初めて見た人、姿勢が悪いなぁと言う人、２ケ月程試験の技ばかりだったのでこれからわくわくする技をまた稽古できると喜んでいる人、普段の稽古の時ほど上手に出来なかった人、様々な感想が出ました。ビール、お酒、おいしい肴で楽しい会になりました。

今回で２度審査のお手伝いをさせてもらって思ったことは、審査を受けることで稽古に緊張感が生まれ励みになる、ということです。

それにしても、皆さん上手すぎる、のかなあ。昔は個性のある人が多かった気がします。そして今は、指導する人が沢山いることで、初心者が悩むことになるのかも知れません。皆さんそれぞれが自分の型を作って、他の人の良い所、悪い所をわかるようになればいいのですが。

皆さん、来年も頑張って下さい。横田さんもどこかで皆さんの様子を見てくださっていると思います。力を合わせて魅力ある道場にしましょう。

昇段者名：二段 ☞ 池内信也、土田剛司
初段 ☞ 川端雅史、楠本千賀
フランク・アダムス

合気道について（入門希望の方へ）

合気道は昭和の初め、今から約７０年前に不世出の武道家といわれた故・植芝盛平によって創始された武道です。植芝盛平開祖を道主として昭和２３年に組織されたのが財団法人・合気会で、現在は子息の植芝吉祥丸現道主に引き継がれています。
(財)合気会は国内に３００以上の支部、道場と世界約５０ケ国の支部に、約１２０万人の登録者を持つ、合気道の正統的かつ最大の組織です。
精武館はこの合気会の神戸支部道場です。今年で創立３５年の伝統を持ち、自由で明るい気風を特色としています。
植芝盛平開祖は合気道について次のように語っています。

・ある日、井戸端で汗を拭いていますと、急に目もまばゆいばかりの金線が、天から無数に降ってきて、体をすっかり包んだかと思うと、こんどは、みるみるうちに体が大きくなって、宇宙一杯になるくらい大きくなってしまったんです。あまりのことに呆然としているとき、はっと悟ったんです。「勝とうと思ってはいけない。武道は愛の構えでなければいけない。愛に生きなければいけない」と悟りましたが、これが合気道で、昔の正眼の構えです。そう気がついたら、こんどは何故か有難くて有難くて、涙がこぼれてきて仕方がありませんでした。
・合気は相手の力を全面的に利用してしまうんです。だから相手に力があればあるほどこっちは楽なんですよ。合気道では絶対に攻めない。攻めるということは、その精神がすでに負けることを意味するんです。徹底した無抵抗主義で相手に逆らわない。だから合気道には相手がない。相手があっても、それは自分と一体になっていて自在に動かせる相手なのです。
・合気は絶対に相手に逆らわない。突いてきても、切ってきても要するに一本の線であり、点であるからそれをよければいい。

合気道練習上の心得

合気道開祖・植芝盛平

一、合気道は一撃克く死命を制するものなるを以て 練習に際しては指導者の教示を守り 徒に力を競ふべからず
二、合気道は一を以て万に当るの道なれば 常に前方のみならず四方八方に対せる心掛けを以て練磨するを要す
三、練習は常に愉快に実施するを要す
四、指導者の教導は僅かに其の一端を教ふるに過ぎず 之が活用の妙は自己の不断の練習に依り始めて体得し得るものとす
五、日々の練習に際しては先ず体の変化より始め 逐次強度を高め身体に無理を生ぜしめざるを要す 然る時は如何なる老人と雖も身体に故障を生ずる事なく愉快に練習を続け 鍛練の目的を達する事を得べし
六、合気道は心身を鍛練し至誠の人を作るを目的とし 又技は悉く秘伝なるを以て徒に他人に公開し或いは市井無頼の徒の悪用を避くべし

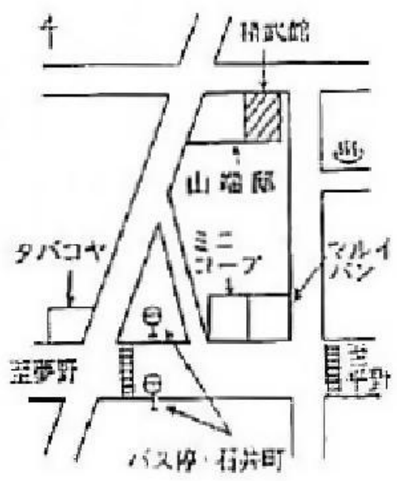
以上

編集後記：昨年１２月８日亡くなられた横田先生を追悼する精武館通信第６号が、道主始めご関係の方々の追悼文を頂いてここにまとまりました。謹んで天国の横田先生にご報告致します。　　多くの方々からの追悼文が集り、発行が遅れたことをお詫びします。皆様の原稿を何度も読み返すうち、多くの方々から心より慕われ、尊敬されていた横田先生の存在の大きさが改めて浮び上がってきました。米持先生の追悼文で草創期の神戸支部の姿が浮き彫りにされ、発足・運営が困難を極めていたことがわかりました。横田先生どうも有難うございました。（題名のついていない追悼文には編集グループで題名を付けさせて頂きました）　〈精武館通信編集グループ、編集・文責：和田正志〉

合気会神戸支部および関連道場案内

(財)合気会神戸支部・精武館

所在地：〒652 神戸市兵庫区石井町8-2-12
☎(078)521-3343
交　通：JR神戸駅より神戸市バス⑦系統「三宮」行きに乗車(約10分)、「石井町」下車
道場長：濱崎正司
稽　古：[一般クラス]　火 18:30-20:00
土 18:30-20:00
日 10:30-12:00
[子供クラス]　土 16:15-17:30(合同)
土 17:30-18:00(中学生)
入会金：2,000円
月会費：一般クラス 2,000円(スポーツ保険含む)
子供クラス 1,000円(　〃　)

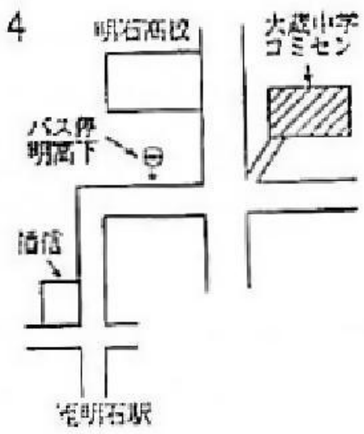


精武館第二道場(中尾道場)

所在地：〒650神戸市中央区楠町1-4-2
☎(078)382-1659
交　通：JR神戸駅または阪神・西元町駅北へ宇治川商店街 藤内商店の西側すぐ
代表者：中尾眞吾 ☎341-3980/341-6395(店)
稽　古：月　18:30-20:00
火　7:00- 8:00　14:00-15:00/レディス
水　7:00- 8:00　18:00-19:30
木　7:00- 8:00
金　18:30-20:00
土　9:00-11:30(9:00-10:00/杖)
入会金：不要
会　費：10,000円/5ヶ月
5,000円/ 〃 (神戸支部会員)

明石道場(大蔵コミセン・合気道サークル)

所在地：明石市西朝霧丘4-7 大蔵中学内
大蔵コミセン 1階
☎(078)912-3620
交　通：JR明石駅東口ステーションデパート前より明石市バス「明舞団地」「朝霧駅」「松ケ丘5丁目」「朝霧2丁目」行きの何れかに乗車(約5分)、「明高下」で下車し徒歩2分。
代表者：小久保宏　講師：濱崎正司
稽　古：水 18:30-20:00
入会金：1,000円
月会費：1,000円(神戸支部会員は無料)



加古川道場(加古川武道館・合気道サークル)

所在地：加古川市加古川町大野1651-1
加古川市立武道館
☎(0794)25-7600
交　通：JR加古川線日岡駅より徒歩、又は日岡バス停より徒歩
代表者：西島正憲 ☎(0794)22-4530
稽　古：金 19:00-20:30
土 15:00-16:30
日 15:00-16:30
入会金：2,000円
月会費：2,000円
[会員1名に付き家族無料、他支部会員は無料
但し、スポーツ保険1,100円/年(大人)
360円/年(子供)が全員に必要]